

# ともに生きる

No.29

平成27年3月発行



## ご挨拶

後援会長

田 村 律 子



例年なく寒い冬でしたが、やはり季節は巡ってくるもので、次第に暖かくなってくる日差しに春の訪れを感じます。後援会の皆様には、日頃からご支援ご協力賜り厚くお礼申しあげます。

こうふく大学二年目の大学行事を振り返ると、八月には近隣の子供たちとともに第二回サマーキャンプを開催しました。大学のキャンパスや施設をフル活用し、一泊二日の楽しいキャンプができました。交通安全教室参加や救命講習会の開催など地域の住民としての役割も果たそうと努めています。公開講座では福祉の視点から、地域おこしについて地元の参加者とともに考えることができました。「食育実践事業in学食」は学生の不健康な食生活を危惧する保護者としては、誠にありがたいものです。大学のホームページからは、同好会・サークルが増え活動の幅がひろがり多くの学生がいきいきと取り組んでいる様子がうかがえます。こうふくフェスタに進化した学園祭は、好天に恵まれ多くの来場者があり大盛況でした。福祉施設利用者の方々の演技や、車いす体験・障がい体験があり、さすが福祉系大学という印象をもちました。

さて、一月末には社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験がありました。国家資格は生きていくうえでの大きな力になるでしょう。しかし、生涯働き続けるためには自分の仕事について学び、技術を磨き続けなければならない時代になりました。自分の仕事に情熱をもちつづけること、そしてその専門的能力を磨き続けることが必要です。卒業生のみなさまには、どうぞこの人生の荒波を、勇気をもって乗り越えていっていただきたいと思います。そして、よき支援者になるために、ご自身も幸せな人生を歩まれますことを願っております。三月には受験された全員に合格通知が届きますようお祈りしております。

四月には新入生をお迎えします。大学生活への希望に胸を膨らませて入学されることでしょう。その期待に応えられるよう大学と協力し、後援会としてもできる限りの支援をしていきたいと考えています。後援会の皆様、今後ともご支援ご協力よろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、地域連携を深めながら大学がますます発展していくことを祈念しご挨拶とさせていただきます。

## 目次

・ご挨拶	1
・後援会の皆様へ	2
・[大阪発] ネパールの文部大臣、キャンパス来訪！・就職の動向について	3
・教育懇談会開催・介護福祉コース学生が「ミニ門松作り」に挑戦！	4
・姫路キャンプ公開講座・就職の動向について	5
・「第2回神福大サマーキャンプ」を開催！	6
・こうふくフェスタ第15回播彩祭・大阪天王寺キャンパス第2回学園祭	7
・実習体験記	8
・就職活動を振り返って	9
・バス納品・平成26年度後期クラブ活動概要報告	10



学部長  
なが せ なお こ  
長瀬修子

## 後援会の皆様へ

寒さも峠をこし、春の気配が少し感じられる今日この頃です。

後援会の皆様、本学への日頃からのご支援、本当にありがとうございます。

この時期、4年生にとりましては卒業を控え、社会人となるべく期待と不安の毎日をすごしていることでしょうし、3年生、2年生、1年生にとりましてはこの1年間の学びを踏まえ次年度への決意を新たにしているところと想像いたします。

1月24日・25日に社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験が実施されました。昨年後期が始まりました頃より、本格的にそれに向けて取り組みを開始する学生が増えました。教員と一緒に、友達と一緒に、あるいは一人で、取り組み方はそれぞれ異なりますが夜遅くまで自習室の電気がついていました。どうか彼ら・彼女らの努力が報われ、多くの学生が資格を取得できることを祈っています。今年、それを手にすることが叶わなかったとしてもあきらめず、次のチャレンジにつなげてほしいと願います。

さて、本学は「個性の伸展による人生練磨」という建学の精神を掲げ、「個性を伸ばし、自信をつけさせて世界におくりだしたい」という創始者の言葉にもありますように学生一人ひとりの個性を伸ばし、学生が自分の夢の実現に少しでも近づけるような学びを4年間通して提供したいと考えています。

社会の中に画一的な人間しかいなければ文化や芸術も貧弱なものとなるでしょうし、人と違う視点をもたなければ新しいものを創り出すこともできません。さまざまな個性の人がいることで集団として成熟したものになると思います。日本の紅葉が美しいのはさまざまな種類の広葉樹が混在しているからだと言われます。北欧やカナダの森林は数種の広葉樹で形成されていて、ダイナミックですばらしい風景としてみることができます。しかし、日本の紅葉は着物の模様にたとえられ、同じ赤でも微妙な違いがあり、その中に黄色や緑が点在し、感嘆のため息とともに心に染み入ってくる美しさです。同じ教育をうけても受け取り方も異なり、自分のものとする力も異なる中でそれぞれの学生の良いところを引き出し、社会に送り出したい。その一人ひとりがそれぞれの場所で、その地に根ざし、いろいろな色や形の花を咲かせ、実をつけてほしい。今の若い人は「指示待ち人間」が多くなっているといわれます。自立した人間として社会に出るために少なくとも自ら「考え・判断し・行動できる力」も培っていきたい。こうした思いの中、これからも教職員一同、学生としっかりと向き合いながら頑張っていきたいと考えています。

多くの学生が学修のみならず、クラブ活動、ボランティア活動など課外活動等にも打ち込むことができるは後援会の皆様のご支援が大きいと思っています。どうぞ、課外活動等にも一層のご理解をいただき、今後も引き続き本学へのご協力、ご支援を賜りますようお願いいたします。





## 【大阪発】ネパールの文部大臣、キャンパス来訪!

大阪天王寺キャンパス長

ひろいまさと  
人拾井雅

ナマステ…。胸の前で合掌しながらこの言葉を言うと、ネパールの挨拶になります。

昨年10月19日。日曜日の夜。ネパール国歌が流れ、ネパール人留学生がネパール国旗を振り、長瀬学部長をはじめ大学関係者がナマステでお迎えする中、ピンクの民族衣装を身にまとったヤダバ文部大臣が、ナマステのポーズで、大阪天王寺キャンパスにお越しになりました。

今回のヤダバ大臣のキャンパス来訪は、本学在籍のネパール人留学生と大阪にあるネパール領事館からの熱い要望を受け、多忙な訪日スケジュールの中、時間をやりくりしていただいた結果、実現したものでした。

ヤダバ大臣を交えた懇談会では、小職から来訪のお礼とヒマラヤでの遭難事故に対するお悔やみを申しあげた後、大工先生が英語で本学及び都筑学園グループの紹介を行いました。ヤダバ大臣は、都筑学園グループがオックスフォード大学St.Anne's College及びケンブリッジ大学Fitzwilliam Collegeと国際提携を結んでいることに強い関心を示されました。

その後、本学在籍のネパール人留学生との意見交換が行われました。留学生からは税負担、奨学金受給など経済的な問題を訴える意見が出され、ヤダバ大臣から懇談会全体を総括するかたちでコメントを頂きました。そして、最後に、参加者全員で記念撮影…。

今回の来訪は45分間と短いものでしたが、終始、友好的な雰囲気の中で進められ、参加したネパール人留学生はヤダバ大臣と直接お話をすることことができたことに深く感動していました。

ヤダバ大臣をはじめ、今回のキャンパス来訪にご尽力いただいた関係者の皆様に、改めてお礼申しあげます。



3

## 就職の動向について



キャリアサポートセンター長

いどむつお  
井土睦雄

本学の本年度就職内定率をみると、1月末現在で約74%と、昨年並みとなり、学生の努力の跡があらわっています。残すところ3月末の最後まで、就職希望学生への支援を続けていきたいと思います。

ところで、いよいよ3年生は、この3月から就職活動を始めるということになります。従来の就職活動の開始時期は12月でしたが、学生の学業に悪い影響を及ぼすという観点から、経団連が加盟企業向けに示すガイドラインでは、3年生の3月から会社説明会などの就職活動を行います。そして4年生の8月から試験、面接などの採用選考を行うという方針が出ています。従来の活動よりも3ヶ月～4ヶ月遅れるということになります。しかし、一部では、内々定を早く出したい企業も存在し、効果は限定的だともいわれております。従来に比べ、選考期間が短くなりますので、企業では、選考のスピード化によって、試験の内容や機会、個人面接内容や時間について、色々と変化することも考えられます。

しかしながら、学生にとりましては、こうした動向にあまり敏感になりすぎても、あせりが生じます。ここは一番、自分の適性や能力をみつめる良い機会ととらえ、希望先の進路に向けて全力でぶつかってほしいと思います。どうぞ、その力が学生に養われますようご支援のほど、よろしくお願ひいたします。

## 教育懇談会開催

学生部長

しば はら なお き  
柴 原 直 樹

神戸医療福祉大学は、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」に基づき「こころの福祉」を実践できる活動力のある、また国際的に活躍できる人材の育成を目的とし、将来の福祉の増進に貢献することを使命としてきました。その中で、大学と家庭、教職員と学生および保護者との関係を緊密にし、双方のコミュニケーションを通じて本学の教育活動の推進に寄与するための機会として教育懇談会は位置付けられています。

平成26年度の教育懇談会は、6月28日および10月18日に姫路キャンパスで開催され、それぞれ42組、27組の保護者の皆様にご出席いただきました。本学における教育活動の取り組み状況をご報告するとともに、個別面談を通してこれまでの授業への出席状況や成績評価をもとに保護者の方とクラス担任・ゼミ担当教員によるご子女の「今後の学修・生活指導」、さらには「大学での生活状況や課外活動、就職・進学等の将来計画」などについて話し合いが持たれました。特に、学生寮などにご子女が実家と離れて暮らしておられる場合、保護者の方からは「今、何を学び、それが将来どのように結実する可能性があるのかを理解することができた」と一様に好評がありました。

ご承知のように「少子高齢社会」の現在、福祉・医療に対するニーズが地域社会において急増しています。「すべての人々のしあわせ」を目標に、地域と連携し、地域から信頼される大学として成長するためには、学生自身が高度な専門知識と技術を習得し、その能力に自信と責任をもって地域社会に貢献できる存在になることが必要です。そのうえで学生が本学に対する信頼と誇りをもって、福祉未来の創造に雄飛する存在として成長することこそが、本学教職員一同の心からの願いであります。

最後になりますが、ご子女の個性を尊重しその可能性を最大限に伸ばすことが、私たち教職員にとっても、また保護者の皆様にとりましても、より満足度の高い大学へと発展する道であることを信じて、本学の教育活動に対する保護者の皆様の一層のご理解とご支援をお願いする次第であります。



## 介護福祉コース学生が「ミニ門松作り」に挑戦！

社会福祉学科介護福祉コース・教授  
た じま よし ふみ  
田 島 栄 文

12月16日、ふくしみらい館にて、「レクリエーション指導法」（レクリエーション指導者資格取得科目）の「福祉サービス利用者への季節感を大切にした支援」の学習として、日本の正月に欠かせない門松の作り方を体験学習しました。



本学管理課職員にも準備と技術指導をお願いし、学生は男女混ぜての5~6人1グループとなり、グループで協力しながら全部で4対のミニ門松を作成しました。材料は葉牡丹以外は全て本大学敷地内で調達した松・竹・梅・南天等を使用し、完成させました。はじめはぎこちない手つきでのこぎりやナタを使っていましたが、次第に慣れて、手が動いていない友人を見かけると檄を飛ばしながら、グループ一丸となって作業を分担して取り組む姿はなかなか頼もしいものがありました。

この日作成した福を呼ぶミニ門松は、学生寮や学生食堂やB棟の前に飾りました。地元の素材を生かした日本の伝統文化を学ぶ体験学習、今後も続けて広げていきたいものですね。

## 姫路キャンパス 公開講座

社会福祉学科介護福祉コース・講師  
荒木 実代

姫路キャンパスでは、「地域おこし」を共通テーマに、3回にわたって公開講座を開催し、地元福崎町の皆さんとの交流を深めました。

「地域」で安心・安全に暮らしていくことは少子高齢社会において鍵となります。第1回では、豊かさとは何かについてのご講義に加えて、受講生と本学の学生でグループワークによる交流もあり、和やかな雰囲気の中で豊かさについて考える機会になりました。第2回では、福崎町西大貫地区で行われている「祭り」の例から、地域コミュニティには持続可能なシステムづくりや行事、ゆるいつながりが必要であることを学びました。第3回では、障がいがあってもこの街が好きと言えるために、「どうしたの」「何があったの」「どうしようか」「見守るよ」と気軽に声をかけあうことが大切だと教えていただきました。

参加者の方々からは、「周りに手を差しのべるよう、気持ちを新たにしました。」「地域のために学生達の協力を得たい。」「今、元気に生かされている幸せ、また、思いやり、尊重しあえること等、いろいろと考えさせられた1時間でした。」など、毎回好評を得ました。

地域の中にある大学として、これからも地域の皆さんとともに学び、成長していく関係を築いていきたいです。



5

開催日	テーマ	内 容	講 師
第1回 11月26日 (水)	少子高齢社会をどう生かすか ～豊かさとは何か～	日本は人口減退期に入ります。これを「さまざまな要素を生み出す時代」ととらえ、これまでと同じ成長ではない成熟社会にふさわしい豊かさを求める時代ととらえ直したいのです。学生参加のワークショップ形式で地域社会の豊かさを考えます。	教授 打田 信彦
第2回 12月2日 (火)	「祭り」にみる地域のつながり ～福崎町西大貫地区を訪ねて～	祭りは住民の楽しみであると同時に、地域のつながりに大きな役割を果たしてきました。しかし、地域の現状は「少子高齢化」「核家族化」「つながりの希薄化」といった中にあり、さまざまな課題が出てきています。地域の祭りを見ながら地域の抱える現状と課題、今後のありかたについて考えていきます。	准教授 黒木 利作
第3回 12月9日 (火)	障がいがあってもこの街が好き ～この街には「平和と人権」を 教えてくれるあなたがいるから～	児童や青年期の障がいのある人たちと共に励ましあって過ごしてきた経験から学んだ「平和と人権」の大切さや、赤ちゃんからお年寄りまで、ほんとうにしあわせになれる街とは一体、どのような姿なのか、参加者のみなさんと共有したいと思います。	教授 井上 瞳雄

## 就職の動向について



NPO法人あい・きゅーびっく  
(就労移行支援・就労継続支援B型事業所) ワークらんど加西  
藤井 茉衣 (平成26年3月臨床福祉心理学科卒)

私の勤務している施設では、病気や障害が原因で一般企業での就労経験がない方などに、働く場を提供するとともに、就労に必要な知識や技術を身につけて頂けるよう取り組んでいます。また新規事業として日中一時支援事業を開始することとなりました。この事業では、障害児の日中に外出の機会の提供や見守り等の支援を行います。施設内でただ時間を費やすだけではなく、普段あまり体験できない事を活動に取り入れ、様々なことにチャレンジして頂きたいと思います。

大学在学中、私は入学から卒業間際まで何度も将来の目標が変わり、自分がどんな分野で働きたいのかを見つけるにはとても時間がかかりました。講義や実習ではもちろんですが、同期生や先輩、後輩、先生方との日常での会話から考えることや学ぶことが沢山あり、その都度自分の在り方を見つめ直し今の目標を持つことができました。

入学当初に受講した「福祉とはなにか」という講義を今でも思い出します。障害を持たれたご本人やそのご家族、近隣住民の方、また障害とは全く接点のない方も福祉の輪に入っています。その輪の中で自分ができる事、任されている事を日々見つめていきたいと思います。

皆さんも将来について悩んだ時は、入学当初の想いを振りかえってみてください。新しい発見に繋がると思います。

## 「第2回 神福大サマーキャンプ」を開催！

社会福祉学科介護福祉コース・教授 田 島 栄 文

昨年に引き続きキャンパス内で夏の自然を楽しんでもらおうと、神崎郡内の小学校を中心に募集をし、13家族41名の親子からの参加申し込みがあったサマーキャンプ。今年は台風接近により、予定を1日スライドさせて8月11～12日に開催しました。

1日目のプログラムは、「開会セレモニー」「はっぴープログラム」「元気アップカレーライス作り」「マーブリングでうちわ作り」「夕食&はっぴーパーティー」「花火」でした。「開会セレモニー」の緊張感は徐々にほぐれ、「はっぴープログラム」では、子どもは「釣りっこ」「射的」「輪投げ」「ストラックアウト」などの遊びのお店で大いに楽しみ、大人はプールで「水中エアロビクス」で交流しました。「花火」の頃には参加者同士もすっかり打ち解け、リラックスした雰囲気が印象的でした。残念ながら、大きな打上げ花火は台風の影響で今回はなかったけれど、大満足の1日目でした。

2日目は、本学自慢のルーフガーデンでの朝食に始まり、フィットネスセンターにあるプールで「レクリエーションスポーツ＆水遊び」、本学のバンブー園の竹でそうめん流しの道具作り、ちくわ作り、紙とんぼ作りもしました。昼食はお待ちかねの「もちむぎソーメン流し」。「閉会セレモニー」では一人ひとりに「修了証」が手渡され、本学マスコットキャラクター犬「ハッピー」と記念撮影をして、お別れとなりました。

地域の方々へ、大学が出来る地域貢献活動の一つとして、更に充実させたいものです。



## ボランティア活動支援センター活動報告

### クリスマスチャリティーイベント

臨床福祉心理学科3年 山 本 和 耶

12月16日、17日にボランティア活動支援センター企画でクリスマスチャリティーイベントを行いました。子どもたちのための募金活動を行い、学生や教職員の方に呼びかけたところ、たくさんの募金が集まりました。古着や古本なども持ってきていただき、それも募金資金として活用しました。募金してくださった方々には、ささやかなクリスマスプレゼントも用意しました。学生の気持ちをしっかりと届けられるよう、これからも活動を継続していきたいと思います。

来年度もボランティア活動支援センターを宜しくお願ひ致します。



## こうふくフェスタ 第15回 播彩祭 姫路キャンパス

生活医療福祉学科  
児童福祉コース3年 ま 真 野 琴 子



皆さんこんにちは、第15回播彩祭実行委員長を務めさせていただきました、3年生の眞野琴子です。

今年度は10月25日(土)26日(日)に『こうふくフェスタ 第15回播彩祭～縊～』を無事に行なうことが出来ました。今年の播彩祭では『友人や家族との断つことのできない縊を大切にしよう』と言う想いを込めてサブタイトルに『縊』と付けました。そして、学生団体の模擬店出店やステージ参加、地域の方によるイベント参加、フリーマーケットなどを始め、近隣の障がい者施設の方々による福祉物産店出店など、多くの方との大切な触れ合いを持つことが出来ました。

私事ですが、今年度で3回目の播彩祭となりました。播彩祭を通してたくさんの方との出会いがありました。どれも大切な出会いであり、これから私のにとって大切な物となりました。

今年度で15回目という大切な節目を迎えることが出来ました。2日間という短い時間ではありましたが大盛況により幕を閉じることが出来ました。これも今まで播彩祭を支えて下さり、日頃からご指導・ご鞭撻下さった皆さんのお陰です。播彩祭実行委員会一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、来年度もより良い播彩祭を作っていくますので宜しくお願い致します。



## 大阪天王寺キャンパス 第2回学園祭

学園祭の実行委員長（学友会長） ぼう きん ざん  
経営福祉ビジネス学科3年 包 金 山

7

2014年10月25日、大阪天王寺キャンパスで第2回学園祭が行なわれました。先生方の丁寧なご指導や学友会メンバーの頑張りのおかげで、学園祭を無事終えることができました。

今回は学園祭を一般公開し、近隣の住民の方々や学生の保護者、友人などが自由に参加できるようにしました。韓国トッポギ、中国ビーフン、ベトナム・フォーなど、日本料理だけでなく大阪天王寺キャンパスの特徴とも言える国際色を生かしたアジア各国の自慢料理の屋台を留学生たちが出しました。また、地域の子どもたちのダンス・パフォーマンスやマッサージ、エステ、手品など、多彩なイベントもありました。チケット運動会は、日本人には当たり前のゲームなども留学生には新鮮なものばかりで、パン食い競争や、顔を真っ白にして小麦粉の中からマシュマロを探す学生たちにみんなで大声援を送りました。

お蔭様で大盛況の学園祭でしたが、今振り返ってみると反省するべきところはたくさんあります。例えば、昨年と比べて学生の参加率が低かったことなどです。これは学園祭の案内が遅くなつたからだと反省しています。これらの経験を生かし、次に向かって頑張りたいと思います。

今後ともご声援よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

## 実習体験記



### ソーシャルワーク実習を終えて 生活医療福祉学科 介護福祉コース4年 もりおか いづみ 森岡 泉美

私は、これまで介護実習に3度行かせていただき、利用者の方に対する直接的な支援の方法を学んできました。さらに、地域の中で暮らす方が抱えている福祉課題をどのように支援し解決しているのかということについて学びを深めたいと考え、実習先として地元の新見市社会福祉協議会を選びました。

実習中は様々な地域に行かせていただき、「ふれあいサロン」などにも参加させていただきました。そして、それを元に地域支援計画を立案させていただきました。その中で、同じ市内であってもそれぞれの地域で異なる福祉課題があることや、支援のありかたにも偏りがあることがわかりました。そのため社会福祉協議会では地域の方が住み慣れた地域で安心して生き生きとした生活を送ることができ、福祉課題を地域で解決できるよう自助力と共に力を地域で強化していく支援を行う必要があると感じました。

今回の実習ではさまざまな業務を体験させていただき、机上の学習だけでは決して学ぶことのできない経験をさせていただきました。また自分自身の反省すべき点や課題も見つけることができました。卒業後は個別の視点に合わせながらも地域の視点も持ち、広い視野で考えられるような支援者になりたいと思っています。

8

### 保育所実習を終えて 生活医療福祉学科 児童福祉コース4年 にいあさみ 新居 麻美

今回の実習では、0歳児以外の全てのクラスを体験させて頂き、その年齢ごとの発達や生活の特徴、成長の様子を見ることができました。

特に3歳児クラスの遊び、保育室でのまごとや外遊びの中の会話は、言葉が豊かで興味深かったです。どこかで見たことや、家で誰かが話していた会話や動作が再現されていて、子どもが注目しているポイントが分かりました。子どもは親や保育者等、本当によく大人を見ています。以前、授業でも習った保育者は子どものモデル、という言葉の意味が理解できた瞬間でした。モデルになるためには、普段からの言葉づかいや、立ち振る舞いに気を付けなければならないということを学びました。

私は実習中、自分のことに必死で子どもの気持ちを受け止めるということに欠けていました。片付けの際、私はとにかく片付けることが大切という考え方になり、子どもの「まだ遊びたい」という気持ちを汲み取ることができませんでした。「まだ遊びたかったね」の一言が大切だと気付きました。また、言い争いになった際、ただその言い争いを止めるだけではなく、双方の思いをしっかりと聞き、受け止める。双方の思いをお互いに伝えるだけでは響かないで、どうしたら良いか、どうしたら良かったかを、子どもに考える時間を作ることが大切ということを教わりました。また、年齢によってはヒントを与えた後、仲立ちをしたりすることも臨機応変に対応していく、ということを学びました。

担当して頂いた先生には、親切にご指導いただきました。反省が多い実習でしたが、子どもの成長に関わることはとても重要で、とても難しいことだと痛感しました。この課題と反省を活かし、現場で活躍したいと思います。



### 信頼関係を築く大切さと 利用者さんの笑顔

### 生活医療福祉学科 介護福祉コース3年 そね はるか 曾根 悠

480時間の介護実習を終えた“今”だからこそ、得たことはたくさんありました。利用者を理解する為の観察や医学的知識は勿論、自己の体調管理から安全・安楽にケアを提供する為の知識と技術が大切であることが分かりました。

利用者自身が、毎日笑顔で前を向いて過ごせる生活を送って頂くことを目標とし、QOL(Quality of life)の向上に努めていくこと。そして利用者の本当の気持ちを引き出せるような“関係性”を築き、“信頼関係”を築くこと。これが私の思う介護で一番重要なことです。

実習を通じ、最初は声を掛けても反応が無く無表情であった利用者でしたが、毎日のコミュニケーションや援助計画の実施の結果、以前は全く参加されていなかったレクリエーションにも参加されました。そこには日々関わる中で見ることの出来た利用者のたくさんの笑顔と築けた“関係性”がありました。

この実習で体験した“介護福祉士”だからこそ味わえる嬉しさと喜びを忘れず、介護に関する知識・技術の向上、一人ひとりの特徴を掴みケアすることに努めたいと思います。利用者に必要とされる“介護実践者”になること、そして一人ひとりの出会いに感謝し、笑顔を絶やさない“介護福祉士”になる夢を叶えたいと思います。



### 精保実習を終えて 臨床福祉心理学科4年 ゆたに しうん すけ 湯谷 俊介

私は約1ヶ月間就労継続支援事業B型で精神保健福祉士取得のための実習を行いました。そこでは、地域活動支援センターの見学や施設のメンバーの方達と一緒に授産品の製作を行いました。実習では様々なことを体験させていただき、非常に多くのことを学びました。しかし実習という緊張が強かったせいか睡眠をあまり取れなかったり、実習日誌を書くのにとても苦労したり、施設のメンバーの方たちの関わり方に困ったり、大変でした。

そんな私がこの実習で感じたことは大きく2つあります。1つは事前学習などで福祉的知識を身につけることは当然ですが1人の社会人としてのマナーを身につけることも大事だと思いました。このことはメンバーの方と何度か面接する時間がありその中から感じました。面接での聞き方でも最大限の配慮を行ったり、面接時間も長引かせたりしない等の配慮が大事だと気づきました。

もう1つはメンバーとかかわるだけでなく、病気に関しての理解を深めるための勉強会参加や授産品の売れ行きを見て新商品を作るといった経営的目線も必要だと感じました。職員として広い分野を行っていくことが求められていると感じました。

これから実習を行う後輩へのメッセージとして、実習に向けて実習計画書を作成しその達成は勿論ですが、色々なものを実習の中で感じ取ってください。そうすれば実習はより意味のあるものになるのではないかでしょうか。

## 就職活動を振り返って



健康スポーツコミュニケーション学科4年

岸 本 大 樹

内定先 西日本旅客鉄道株式会社

私は一昨年の10月から就職活動を始め、昨年の4月に西日本旅客鉄道株式会社から内定を頂くことが出来ました。就職活動当初は何から始めて良いか分からず、とりあえず企業の話を聞いてみようと思い、様々な説明会に参加しました。そこでJR西日本と出会い、ここで働きたいと思いました。内定を頂くまで面接試験や筆記試験など長い道のりでしたが、周りの方々の支えのおかげで乗り越えることが出来ました。

これから就活生の皆さんには、すべての経験に無駄なことはないと思って就活に限らずチャレンジしてほしいと思います。



経営福祉ビジネス学科4年

羅 今 蘭

内定先 株式会社 TPS-int

自分を知り、自信を持って前へ進もう!!

4年間この大学に通った先輩として、在校生の皆さんにささやかなアドバイスを伝えたいと思います。

私は、就職活動によって大きく変わりました。履歴書作成における「自己分析」は、自分を見つめるよい機会でした。そしてそれが、就職のための大きなポイントであることに気づきました。また、私には自信が少し足りなかつたため、面接のときには意識して「演技」をしていました。これもいい経験になりました。

「自分を知り、自信を持って前へ進もう!!」これが、在学生の皆さんに一番伝えたいメッセージです。



生活医療福祉学科 児童福祉コース4年

前 田 紋 佳

内定先 (株)サンタクローススクール ジャパン

私は、地元の保育所で就職したいと思っていた。以前から地元の就職サイトに登録し、情報を集め、夏休みから活動を始めました。第一希望の保育所を見学した際、その雰囲気の良さに引かれ、採用試験を受け内定をいただきました。

就職活動を振り返って思うことは、地元で就職を目指すには、事前に多くの情報を集め検討し、長期の休みを効率よく活用することが重要だと感じました。

これから就職活動をする皆さん、しっかり自分と向き合い、そして時間を惜しまず頑張っていただきたいと思います。



健康スポーツコミュニケーション学科4年

千 代 延 純 平

内定先 医療法人 養和会

私は、昨年の1月頃から就職活動を始めました。活動中は様々な業界・会社の説明会や選考会に参加しました。それぞれの担当者から話をしっかりと聞き、情報を得ることに力を注ぎました。自分が本当に第一志望としている職種で働きたいのか、それとも他に自分の力が発揮できる場所があるのかを自問しつつ活動しました。私にとって就職活動は、自分自身と向き合う良い機会となりました。結果は、当初の第一志望としていた病院で「健康運動指導士」として働くことに決定しました。

これから就職活動をする皆さん、まずは自分自身と向き合う時間を大切にし、そして本当に自分のやりたい事を見つけ出してほしいと思っています。



生活医療福祉学科4年

青 木 孝 平

内定先 奉志会グループ

私は、就職活動解禁とともに、就職情報サイトを活用し一般企業の不動産関連を中心に説明会に参加しました。活動が進むにつれ、自分が本当に不動産関連で働きたいのか?という疑問がでてきました。自分自身どんな仕事がしたいのか考えた末、私は社会福祉専攻でソーシャルワーク実習に参加し、様々な勉強もしてきたので、それを活かせる仕事を探そうと決意しました。

そんな時に播磨地域の就職説明会で大きな福祉施設と病院を経営している奉志会グループに出会いました。そこは若い人も活躍でき、様々な新規事業を開拓しています。私はそこに魅力を感じ、施設見学後、二回の面接を受け内定を貰うことができました。

就職活動中は、誰よりも先に行動するということを忘れずに、積極的に働きかけるということが重要になってきます。「思い立ったら即行動」と心に刻んで後悔のない就職活動をしてください。



生活医療福祉学科介護福祉コース4年

山 根 美 郷

内定先 社会福祉法人 四ツ葉会

私は、就職先を地元に帰るか県外に出るかで悩みました。親孝行のためにも地元に帰って就職したほうが良いのではないかと考える一方、実家に帰るとすぐ親に頼ってしまうということもわかつっていました。結局、親元を離れ、自分の力で生活していきたいと考え県外への就職を決定しました。

就職先は特別養護老人ホームです。入学当初は社会福祉協議会で働きたいと漠然と考えていました。学年が進み、介護実習やソーシャルワーク実習を経験する中で「共感する気持ち」が大切だということを実感するようになりました。まずは介護職としての視点を学び基礎力をつけたいと思います。私は実習を通して、「してみたい」ことを見つけることが出来ました。

これから就活をされる方には、たくさんの人と出会い、多彩な価値観に触れた中で、自分のやりたいことを見つけてほしいと思います。



臨床福祉心理学科4年

三 輪 麗 佳

内定先 特別養護老人ホーム 喜楽苑

わたしが内定をもらったのは4年生の6月頃でした。3年生後期から就職セミナーや会社説明会などに積極的に参加し、自分が就職するにあたって求めている条件に合う施設を絞り込んでいました。

受かる履歴書を作るために何度もキャリアサポートセンターへ足を運び、先生方に履歴書を見てもらいました。自分が納得出来るまで訂正を繰り返すと備えました。

面接では履歴書に書いたことを聞かれることが多く、事前に履歴書に書いた内容を読み返すといった確認作業を続けました。就職活動では「自分を知る」という自己分析が一番難しかったように思いました。人から見た自分、自分から見た自分は違っているため、そのギャップに戸惑うこともありました。根気強く自己分析を継続し、しっかりした考えを持つことが鍵となり、内定をもらうことができたと思います。





10年ぶりに後援会よりマイクロバスを寄贈いたしました。

学生たちの課外活動(対外試合やボランティア)が活発になってきているようです。

有効にご利用いただき、さらなる活躍を期待したいものです。



学友会主催リーダーズ研修会  
参加学生のみなさん

### 平成26年度後期 クラブ活動概要報告

10

硬式野球部

近畿学生野球連盟 秋季リーグ戦3部 3位

首位打者・ベストナイン賞 大迫翼(健康スポーツコミュニケーション学科1年)  
神戸新聞杯争奪兵庫県大学野球選手権大会 出場

軟式野球部

近畿学生軟式野球連盟 秋季リーグ戦2部 出場

男子サッカー部

関西学生サッカーリーグ戦(後期) 3部Bブロック 6位

男子バスケットボール部

関西学生バスケットボールリーグ戦 6部リーグ優勝

最優秀選手賞 天神敬太(健康スポーツコミュニケーション学科2年)  
関西学生バスケットボール新人戦 出場

ウェイトトレーニング部

近畿ベンチプレス選手権大会 出場

全日本ベンチプレス選手権大会

女子52kg級 優勝 櫻由貴(社会福祉学科 介護福祉コース1年)※アジア大会参加資格獲得  
女子57kg級 優勝 藤原のどか(生活医療福祉学科4年)※国際大会参加資格獲得

柔道部

関西学生柔道体重別選手権大会 出場

山本杯兵庫県学生柔道優勝大会 出場

都道府県対抗全日本女子柔道大会記念第4回中国地区女子柔道大会 出場

吉田好絵(健康スポーツコミュニケーション学科2年・島根県代表)

兵庫県学生柔道体重別選手権大会 出場

陸上競技部

兵庫陸上競技秋季記録会及び兵庫支部審判講習会実技 出場

軽音楽部

播磨祭公演、他大学合同ライブイベント出演、卒業ライブの開催

ダンスサークル

播磨祭公演

吹奏楽部

播磨祭公演

Enjoy Cooking

近隣地区にてワンコイン食事会 開催

茶道部

寺院主催お茶会 参加

手話サークル

町内イベント 出演

ジャグリング同好会

町内イベント 出演



発行日：平成27年3月1日

発 行：神戸医療福祉大学後援会

事務局 学生課 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡 1966-5

TEL (0790) 22-5125 FAX (0790) 22-6941 E-mail:gakuseibu@sw.kinwu.ac.jp